

巻 頭 言

阿賀の 湧き水

貴重な自然をたずねる

AGA
SPRING WATERS BOOK

災害大国とも言われる日本は、昔から地震の被害を受けてきました。近年では、東日本大震災（平成23年）があり、その後も熊本や北海道で震度7を観測する等、大きな地震が頻発しています。また、近年は地震のみならず、豪雨による災害が日本各地で発生しています。新潟県内でも令和4年8月に村上市、関川村を中心とする集中豪雨による水害が発生し、一部地域では上水道の供給が停止し、再開まで3週間を要したということもありました。

災害時に生活用水の確保が困難な場合、湧き水が利用されることがあります。実際に、中越地震（平成16年）、中越沖地震（平成19年）と二度の地震を経験した柏崎市では、震災時に身近にある湧き水が大いに役立ったとの市民の声が聞かれました。

当財団は、一般財団法人移行時から環境貢献事業（公益事業）の一環として湧水調査に取り組んでおります。調査によって得られたデータは、緊急時等における生活用水確保において重要な役割があると考えています。また、地域に残る湧水の伝承等を取りまとめることは、その地域の歴史と水のある環境を守ることに繋がっていくと思っております。

湧水調査は、これまでに柏崎市、佐渡市、村上市・関川村で行い、小冊子として「柏崎の湧き水」、「佐渡の湧き水」、「村上・関川の湧き水」の3冊を出版いたしました。このたび出版する「阿賀の湧き水」は、阿賀町及び地域住民の方々の協力を得て令和2年度から4年度までの3年間に行った湧水調査の結果を取りまとめたものです。

この小冊子は、阿賀町から観光情報の提供受け、身近にある観光資源も含めて取りまとめました。是非とも、皆さまから気軽に湧き水のある環境を訪ねていただき、自然の中で人知れず湧き出す恵みに触れて頂ければと存じます。

令和5年9月30日

一般財団法人 新潟県環境衛生研究所
理事長 三 富 潤 一

目次

巻頭言	・・・・・・・・	I
はじめに	・・・・・・・・	2
本書の読み方	・・・・・・・・	6
阿賀の湧き水	・・・・・・・・	10
阿賀町	・・・・・・・・	12
津川地区	・・・・・・・・	14
① 活清水	いかしみず	・・・・・・・・ 16
② 道下清水	みちしたしみず	・・・・・・・・ 20
③ 金鉢清水 (野村)	かなばちしみず のむら	・・・・・・・・ 24
④ 釜窪清水	かまくぼしみず	・・・・・・・・ 28
⑤ 下堤清水	したつつしみず	・・・・・・・・ 32
⑥ 金鉢清水 (津川3区)	かなばちしみず つがわ	・・・・・・・・ 36
⑦ 琴平清水	こんびらしみず	・・・・・・・・ 40
⑧ カノカマ清水	しみず	・・・・・・・・ 44
⑨ 大清水	おおしみず	・・・・・・・・ 48
⑩ 馬喰清水	ばくろうしみず	・・・・・・・・ 52

鹿瀬地区	・・・・・・・・	56
⑪ 縄文清水	じょうもんしみず	・・・・・・・・ 58
⑫ 夏渡戸の清水	なつわど しみず	・・・・・・・・ 62
⑬ 栃ノ木清水	とち きしみず	・・・・・・・・ 66
⑭ トンネルの水	みず	・・・・・・・・ 70
上川地区	・・・・・・・・	74
⑮ 大清水	おおしみず	・・・・・・・・ 76
⑯ 合川清水	あわせがわしみず	・・・・・・・・ 80
⑰ 土佐清水	とさしみず	・・・・・・・・ 84
⑱ 弘法清水	こうぼうしみず	・・・・・・・・ 88
⑲ 名古屋の清水	なごつ しみず	・・・・・・・・ 92
⑳ 中道清水	なかどうしみず	・・・・・・・・ 96
㉑ 佐惣の清水	さそう しみず	・・・・・・・・ 100
㉒ 相高島清水	あいたかしましみず	・・・・・・・・ 104
㉓ 輝泉清水	きせんしみず	・・・・・・・・ 108
㉔ 七福の水	しちふく みず	・・・・・・・・ 112
三川地区	・・・・・・・・	116
㉕ 薬師清水	やくししみず	・・・・・・・・ 118
㉖ 屋敷清水	やしきしみず	・・・・・・・・ 122
㉗ 大坊山清水	おおぼうさんしみず	・・・・・・・・ 126
㉘ 横岩の清水	よこいわ しみず	・・・・・・・・ 130
㉙ 桂清水	かつらしみず	・・・・・・・・ 134

阿賀の湧泉環境	139
湧水特性	140
地形と地質	150
植生	152
鳥類	155
水環境と生活	159
阿賀町の縄文遺跡と水場の営み	160
イザベラ・バード in 阿賀町～145年の時を超え、語りかけるもの～	165
巻末資料	171
本書の読み方（詳細版）	172
おいしい水の条件	175
軟水と硬水	175
震災等の非常時における飲用判定（井戸水等由来の飲料水）	176
水質検査項目解説	179
飲用井戸定期水質検査結果及び現場測定結果	187
水質基準項目検査結果	192
湧水アンケート結果	200
阿賀町湧水調査報告書	201
おわりに	202

阿賀の湧き水

～貴重な自然をたずねる～



はじめに

阿賀町の湧き水調査は、一般財団法人新潟県環境衛生研究所が環境貢献事業（公益事業）の一環として阿賀町の協力のもと、令和2～4年度の3年間にわたり29カ所の湧水を対象に実施したものです。

この調査は、湧水に関する基礎的な情報（湧水の水質、故事来歴等）を取りまとめるもので、次のことを目的として実施しています。

① 水環境の保全

近年各所で湧水の枯渇が言われており、例えば宅地開発等によりこれまで保たれていた森林が伐採され、湧水の涵養源が確保出来なくなったこと等があげられます。人々の良好な生活環境を保全するには、良好な水環境が保たれ、これまでと同様に涸れることなく湧水が湧き出る環境を保全していくことが大切と考えています。

② 災害時等の水源確保

湧水調査を始める一つの切っ掛けとなったのは、平成19年に起こった中越沖地震後に、身近にある湧水が大いに役だったとの市民の声をお聞きしたことでした。東日本大震災においても、発生した6日後に大槌町内のJR山田線トンネルから湧き出す水を一日に2回ほどペットボトル4、5本に汲み、避難先での洗い物や洗濯等に使い断水をしのいでいたという事例もありました¹⁾。

これらのことは、湧水が災害時に貴重な水源となり得ることを示しています。この調査を通じて、湧水が緊急時にも役立つ貴重な水源であることを伝えていければと考えます。

③ 観光資源としての活用

実際に湧水を観光に使っている例の一つに、阿賀町では「七福の水^{しちふく}」（阿賀町七名^{あがななめ}）があります。当初、湧水に名前は付けられていませんでしたが、七名地区が七福神を観光の目玉にしていることが



ら、七福の水と命名されることになりました。七名地区では、七福の里活性化委員会を立ち上げ地域おこしが始まり、「七福の里祭り」が開催されるようになりました。最近では、各集落の七福神の石碑を巡る「七福神めぐり 開運スタンプラリー」も行われています。

このように湧水は、まちの観光資源としての役割を担うこともできます。

本書に掲載された29湧水は、阿賀町の皆さまへのアンケートを通じて明らかになった湧水の中から、当財団が独自に作成した「調査対象湧泉選定基準」による選定を経て、地元区長等湧水管理者から調査及び結果の公表に了承の得られたものについて、順次調査したものです。

この度、阿賀町の皆様を始めとして多くの方々から湧水に関わって頂き、自然の大切さを感じてもらうことを目指し、調査結果を小冊子として取りまとめ出版することといたしました。この小冊子が、多くの皆様が湧水に触れあってもらえる契機となることを祈念いたします。



引用文献

- 1) 朝日新聞 平成23年3月22日朝刊「湧き水 被災者の支え」

注意事項

湧水は、自然環境の中で湧出しており、水質が管理されているものではないため、飲用について安全を保証するものではありません。

また、湧泉の場所によっては、危険な箇所を通ることもありますので、十分な注意が必要です。お出かけ前にしっかりと確認をお願いします。

なお、訪れる際は次のことを遵守するようお願いします。

- ・訪れる際は交通の支障とならないよう配慮すること。
- ・地域の迷惑にならないよう、ゴミは持ち帰ること。
- ・周辺の自然環境を守ること。
- ・管理者等の了解なしに入ったり、水を汲んだりできない場合があるので注意すること。
- ・野生動物に注意し、山間部に行く際は、熊すず、熊よけスプレー等の持参するように配慮すること。
- ・湧水地点が山間部の場合もあるので、雪崩、土砂災害等、二次災害がおきないように周囲の安全を確認したうえで、採水をおこなうこと。



汲みやすい場所



採取時注意が必要な場所



案内人

「kanちゃん」



澄んだ湧き水から、生まれた水の精。まだ幼くこれから自分がどのように姿を変えて美しい清流になって行くのか、それとも流れにのって街に辿りつくのか、色々な未来に胸をときめかせています。また、人々の暮らしや環境の変化に興味があり、大きな瞳で熱心に見ています。

本書ではkanちゃんが湧水散策のガイド役として活躍します。

「kanちゃん」のいろいろなポーズの例



※ 本書では、「湧泉」と「湧水」という2つの用語を使用しています。次の使い方をしていることをご理解のうえ、お読みいただきたいと思います。

湧泉：地下水が自然状態で地表面に流出している場所、もしくは地表水に流入している場所

湧水：基本的に湧き出した水その「もの」（環境省「湧水ガイドライン」での定義）をいいますが、本書では、湧泉から離れた場所に導水されている場合も想定し、汲める場所の水を湧水と表現しているため、湧泉の場所と一致しない場合もあります。

本書の読み方

この本の読み方のポイントを示しています。各項目の詳細な説明については巻末資料p.172の「本書の読み方（詳細版）」を参考にしてください。

インデックス
地区名称

活清水

1 活清水

概要

概要
湧水、湧泉についての状況を説明

ミニ情報
湧水散策をする際に思わず立ち寄りたくなるような観光施設や名所などのうちの一つを取り上げて紹介します。

湧水状況写真
現地での湧出状況写真などを掲載。散策したら同じアングルを探してみてください。

パンoram写真
湧泉の遠景などをパノラマ撮影にて掲載。この写真を参考に湧水探索してみてください。

「活清水」は、山中の比較的平坦な場所に位置しています。かつての会津街道の茶屋で利用されていた他、農業用水として水田を潤していました。現在は湧水周辺での耕作が行われていないことから、利用されなくなりました。

ら岩の隙間を縫うように静かに湧き出しており、湧出後は水周囲の岩は苔生しており、年月が感じられるとともに、夏場れます。

4月25日はハツ田集落に祀られている愛宕様の縁日で、健康を祈願し祭礼が行われます。この他にも春祭りや秋の収穫祭が行われ、3月には身体安全を祈願して熊野神社で山の神の祭りが行われています。

図1-2 熊野神社

図1-3 遠景（白○は湧泉の位置）

アクセス
湧水までたどり着けるよう詳細な地図と道順を記載

湧水マップ
阿賀町内のおおよその位置を図示

アクセスマップ
主要道路から湧水までの道筋（青い線）

経路説明
自家用車を利用して阿賀町役場から湧水に行く代表的な経路を記載

所在地
湧水の所在地

座標
湧水の座標 (GPS)

必要採水器具
必要となる採水器具、採水容器を記載

服装
水を汲みに行く時の望ましい服装を例示

おすすめの時期
湧水散策をするのにおすすめの時期を紹介

二次元バーコード
バーコードを読み取るとGoogleマップ上に湧水の位置を表示

所要時間（自家用車）
自家用車を利用して阿賀町役場から湧水にたどり着くまでの、おおよその所要時間

バス停等からの徒歩移動距離
公共交通機関を利用して、最寄のバス停（または駅）から湧水までの徒歩移動距離。バス（または電車）は運行状況を確認して下さい。

阿賀町役場から国道49号を会津若松方面へ向い、福取トンネルを抜けて山田集落の案内矢印が見えたらY字路を右折し熊野神社の鳥居へ向う。鳥居の左手に緑の看板が見えてきます。さらに耕作地の脇を歩くと湧水があります。

■所在地
阿賀町ハツ田（津川地区ハツ田）

■座標
北緯 37° 39' 21.71"
東経 139° 33' 51.41"

■バス停等からの徒歩移動距離
新潟交通観光バス「津川駅-上川支所-室谷線-野村バス停」下車、約10.3km

■所要時間（自家用車）
阿賀町役場から車で15分

■必要採水器具
柄杓、漏斗、採水容器

■服装
湧水までは山道です。また、時期によっては草等が生い茂っているため、肌を露出しない服装がおすすめです。

■おすすめの時期
春はアクセスが容易ですが、雪が積もるため湧水まで行くのは困難です。種々の状況に応じてお選びください。

湧水の性状

年4回測定した湧水の性状のうち、代表的なものを掲載 (p.187~参照)

湧水の水質

湧水の性状 (気温は除く)	令和2(2020)年			令和3(2021)年
	5月19日	8月26日	11月26日	2月25日
気温 [°C]	16.3	23.2	10.2	0.5
水温 [°C]	8.5	9.2	9.3	8.9
pH [-]	6.1	6.8	6.7	7.5
電気伝導率 [mS/m]	6.9	6.5	7.1	7.2
湧出量 [L/分]	151	231	449	*** ^{※3}
大腸菌 [-]	○	×	○	×
一般細菌 [-]	○	×	○	○
理化学項目 [-]	○	×	○	○

※1 水道水質基準超過項目：色度6.7度 (水質基準5度以下)
 ※2 水道水質基準超過項目：色度5.4度 (水質基準5度以下)
 ※3 融雪水等の影響により膨大な湧出量であり、測定不能。
 詳細は巻末資料の水質試験項目解説 (p.179) を参照。

湧水特性

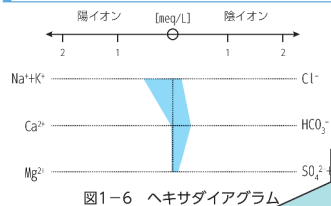


図1-6 ヘキサダイアグラム

湧水特性

湧水に溶存しているイオン8成分を測定し、ヘキサダイアグラムとして掲載し、湧出量、水質についての概要を記載 (p.140参照)

湧出量は豊富ですが、季節的な変動があります。水質の変動は少ないです。
ヘキサダイアグラムでは、

湧泉環境

周辺地質、湧出機構、周辺植生など。

湧泉環境

地質	津川層と呼ばれる粘板岩質と泥岩が主体となっており、一部、風化した緑色凝灰岩が見られる。
湧出機構(推定)	山間部への降雨が表土や礫などの間隙を縫いながら浸透し、下位の泥岩に遮られた間から湧出している。
植生	スギ植林が広く成立し、高木としてコナラ等の落葉広葉樹、低木としてオオバコ、クマシズク等が見られる。林床にはリュウノヒゲ等のシダ類やミソソバ、アカザ等の草本類が見られる。
その他	湧泉は標高315m付近に位置し、集落から緩い斜面を上った先の山の斜面にある。

注意事項

湧水の水質は変化することがあります。

気をつけてね!



湧水の歴史

湧水の歴史や言い伝え、現在の利用状況など。

湧水の歴史

活清水はかつての会津街道に位置し、往来する旅人が街道近くにあった茶屋(現在は取り壊されている)でこの湧水を飲むとたちまち生き返った(活かされた)という伝承からその名で呼ばれており、当時街道を抜けるのがいかに大変であったかを伝えています。また、かつては農業用水として利用されており、水路も整備されていました。明治19(1886)年に現在の国道49号が整備されると、この地の会津街道は利用されなくなり、山間部の水田も次第に放棄されるようになったことから、活清水も使われることがなくなりました。

周辺情報

湧水周辺の見所や、近隣の観光施設・名所など。

八ツ田集落は、井戸水を飲用水として使用していましたが、生活用水、農業用水、古くから熊野神社の近くにある熊ノ堤に溜められた水が各集落に供給され、活清水を直接利用することはありませんでした。また、この湧水の一つとして、東蒲原郡史には「かつて8枚の田を持つムラ」と記されています。また、火の神様である愛宕様は本来集落より高いところに祀られますが、集落移転の際にそのままとなったため、現在は下手となっているとの言い伝えも残っています。

周辺情報

八ツ田集落の隣に位置する福取集落に「福取の一里塚」があります。慶長9(1604)年に一里塚は江戸日本橋を起点として東海道・東山道・北陸道に旅程の目安とするともに、木陰で休憩をとる場所として設けられました。会津街道の一里塚の設置は寛文7(1667)年から行われ、若松城下から一里(約4Km)ごとに一対、道の両脇に築かれていきま



図1-7 福取の一里塚

保全活動

湧水の保全活動状況

は、直径4m、高さ3mの道路を掘り下げたため、切り通しの両側の杉林に囲まれて高く見えず。塚自体は道路をはさんで2基一対で当時のままの姿を残しています。

保全活動

定期的な保全活動は行われていません。

文献

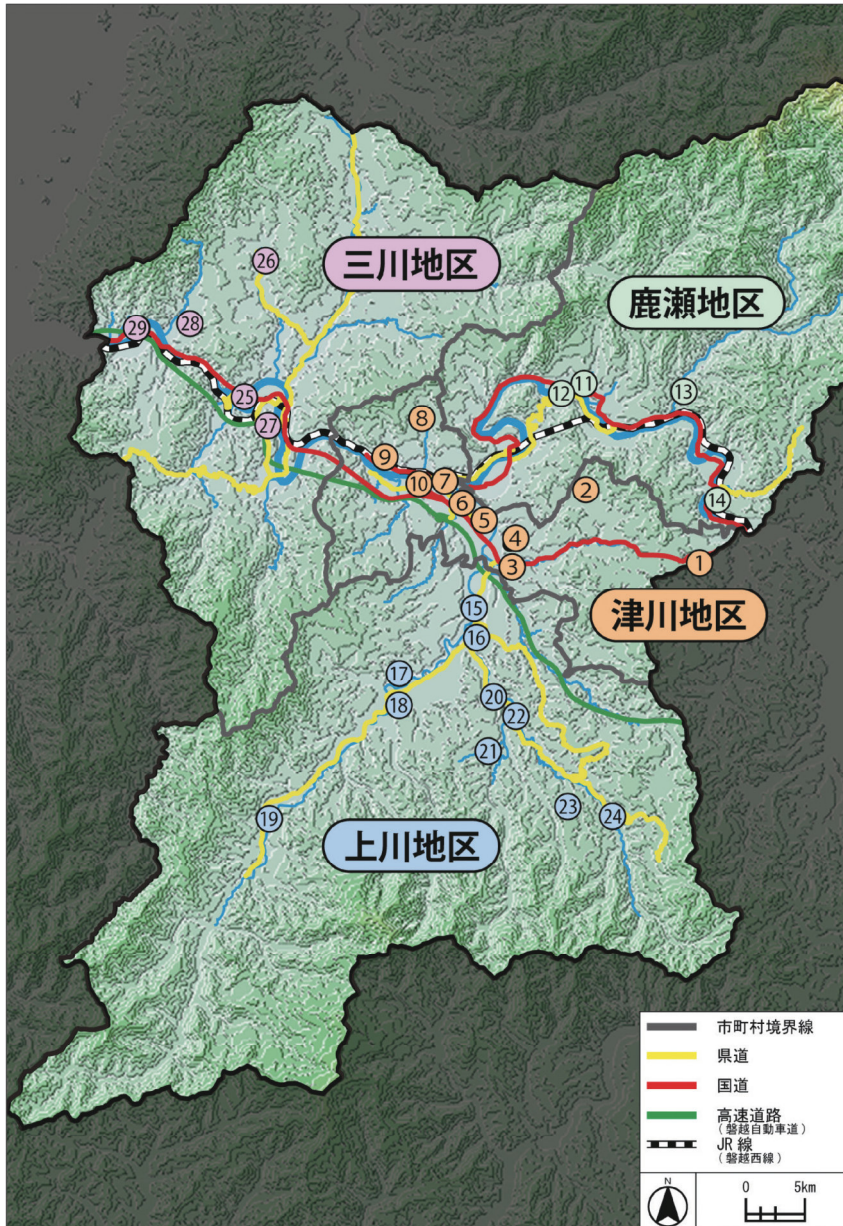
東蒲原郡史編さん委員会 編 (2004) 東蒲原郡史 資料編8 民俗 東蒲原郡史編さん委員会 p.522
 東蒲原郡史編さん委員会 編 (2011) 東蒲原郡史 資料編9 文化財 東蒲原郡史編さん委員会 p.287

文献

引用文献または参考文献

阿賀の湧き水

調査湧水位置図



調査湧水一覧

本書では調査対象とした29箇所の湧水を、その位置から阿賀町の津川地区、鹿瀬地区、上川地区、三川地区の4つに区分し、順に紹介します。

No.	湧水の名称	所在地	
津川地区	① 活清水	津川地区八ツ田	阿賀町八ツ田
	② 道下清水	津川地区倉ノ平	阿賀町倉ノ平
	③ 金鉢清水 (野村)	津川地区野村	阿賀町野村
	④ 釜窪清水	津川地区天満	阿賀町天満
	⑤ 下堤清水	津川地区平堀	阿賀町平堀
	⑥ 金鉢清水 (津川3区)	津川地区津川3区	阿賀町津川
	⑦ 琴平清水	津川地区津川10区	阿賀町津川
	⑧ カノカマ清水	津川地区京ノ瀬	阿賀町京ノ瀬
	⑨ 大清水	津川地区大牧	阿賀町大牧
	⑩ 馬喰清水	津川地区西	阿賀町西
鹿瀬地区	⑪ 縄文清水	鹿瀬地区水沢	阿賀町日出谷
	⑫ 夏渡戸の清水	鹿瀬地区夏渡戸	阿賀町日出谷
	⑬ 栃ノ木清水	鹿瀬地区実川島	阿賀町日出谷
	⑭ トンネルの水	鹿瀬地区船渡	阿賀町豊実
上川地区	⑮ 大清水	上川地区高清水	阿賀町両郷
	⑯ 合川清水	上川地区合川	阿賀町豊川
	⑰ 土佐清水	上川地区高出	阿賀町日野川
	⑱ 弘法清水	上川地区八田蟹	阿賀町広谷
	⑲ 名古津の清水	上川地区室谷	阿賀町神谷
	⑳ 中道清水	上川地区栗瀬	阿賀町三宝分
	㉑ 佐惣の清水	上川地区小手茂	阿賀町小手茂
	㉒ 相高島清水	上川地区相高島	阿賀町三宝分
三川地区	㉓ 輝泉清水	上川地区大尾	阿賀町七名
	㉔ 七福の水	上川地区丸瀬	阿賀町七名
	㉕ 葉師清水	三川地区岩谷	阿賀町岩谷
	㉖ 屋敷清水	三川地区中ノ沢	阿賀町中ノ沢
	㉗ 大坊山清水	三川地区谷沢	阿賀町あが野南
	㉘ 横岩の清水	三川地区石戸	阿賀町石戸
	㉙ 桂清水	三川地区石間	阿賀町石間